

# はれひめ

登録番号：(出願公表番号第13718号)	村瀬昭治 瀧下文孝
登録年月日：(出願公表平成13年8月10日)	来歴：「E-647」「清見」×「オセオラ」と「宮川早生」の交雑実生
登録者：(出願者：(独)農業・生物系特定産業技術研究機構)	育成地：静岡県静岡市清水興津 ((独)農業・生物系特定産業技術研究機構果樹研究所カンキツ研究部興津)
育成者：吉田俊雄 根角博久 吉岡照高 中野睦子 伊藤祐司	

## 特性

### ■栽培特性

樹勢は中庸で、樹姿は直立性と開張性の中間である。枝梢は太く、短く、密生する。節間の長さは中位である。とげは多いが、樹勢が落ち着けば発生しなくなると考えられる。「宮川早生」に比べて葉が小さく、細長い形をしている。葉の厚さは薄い。花は小さく、単生する。葯は退化して花粉が無く、「清見」タイプの雄性不稔である。結実性は良好であるが、隔年結果の傾向が多少認められる。

### ■果実特性

果実は平均180g前後で、果形指数130位の扁球形である。果頂部、果梗部の形はともに平らである。果皮は橙色で、果面はやや滑らかである。果皮の着色開始は10月下旬～11月上旬で、完全着色は12月上旬～中旬である。果皮の厚さは4mm内外で、ミカンタイプとしてはやや厚いが、柔らかく、剥皮は容易である。浮き皮はほとんど発生せず、発生しても軽度である。果心は大きく、空洞になる。果肉は橙色で比較的柔らかく、果汁量は多い方である。じょうのう膜は比較的薄く柔らかいので食べやすい。す上がりの発生はほとんどない。果汁の糖度は比較的低く、食味が比較的淡白になりやすいが、減酸が早く、12月上旬には0.7%程度になり、オレンジ様の風味があるので、糖度が11%台になると食味が良く、味の点からも食べやすい。成熟期は12月上旬頃で、普通温州程度に早熟であり、年内の収穫、出荷が可能である。年により果皮の着色が遅れ、酸含量とアンバランスになることがある。花粉が無いので他品種の花粉がかからなければ無核である。自然受粉でも含核数は少ない。種子は単胚性である。

### ■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

そうか病はほとんど発生が認められず、かなり強いと考えられる。かいはよう病に対してはやや罹病性で、夏秋梢の発生の多い若木の時期には注意する必要があるが、特に大きな問題ではない。カンキツトリステザウイルスによる樹の衰弱は認められていない。

栽培条件により果汁の糖度が低く、食味が淡白になりやすいので、水田転換園のような土壌水分が多くなりやすい所での栽培は避ける。品質の良い果実を生産するためには、夏秋季に降雨が少ない地域での栽培や、夏秋季に土壌水分をコントロールし、樹体に水分ストレスがかかるような条件での栽培が望ましい。結実性は良好であるが、含核数の多少により玉揃いがやや悪いので、適正な摘果に努める。

### ■地域適応性

成熟期が12月上旬で早熟性であり、カンキツ栽培地帯では果実への寒害の恐れはないので、温度的には栽培可能な地域は広い。しかし、高品質果実の生産には夏秋季に降雨の少ない地域が適地である。収穫期が同時期の普通温州ミカンとは生産過剩傾向にあり、また、近年、特に酸味の少ないものが好まれる傾向にあるので、瀬戸内地域等で本品種が新しいタイプのカンキツとして一部置き換わって普及することが期待される。(吉田俊雄)